

チェスター・ビーティー・ライブラリー

チェスター・ビーティー・ライブラリーはアイルランドの首都ダブリンにある。ここには鉱山王と呼ばれた実業家アルフレッド・チェスター・ビーティー卿(Sir Alfred Chester Beatty 1875-1968)が、その見識と財力で蒐集し愛玩した世界中の美しい本が集まっている。チェスター・ビーティー卿は1875年、ニューヨークのアイルランド系アメリカ人の家に生まれた。コロンビア大学で鉱物学を専攻後、33歳で米国鉱山技師の最高顧問となった。アフリカの北ローデシア、ベルギー領コンゴで銅山事業に成功、40代にして世界的な大実業家、大富豪として知られた。当初ニューヨーク、ロンドン、晩年はダブリンに居住。30代後半からインクynaブラ、福音書を中心とする西洋の装飾写本、デューラーの版画等本格的な稀覯本の購入を開始した。また、長年の鉱山生活で損なわれた健康を回復するため度々中近東に旅行、バビロニア粘土タブレット、エジプトのパピルス、ペルシャの絵画、インドのミニチュア(細

密画)、多数のコーラン等を蒐集した。42歳のとき訪日、日本の美、とりわけ愛らしいお伽草子絵や、濃密で繊細な彩色で描かれないいわゆる「奈良絵本」に魅了された。次々と購入した絵本の数は約80点。今日在外奈良絵本所蔵館のトップである。同館では他に平安末期の絵入写経をはじめとする写本129点、絵入版本106点、北斎を中心とする日本木版画800点なども所蔵する。ビーティー卿は1968年に93歳で没した。生涯をかけた美術品の全ては故郷アイルランド国家に寄贈された。現在の図書館は2001年に開館した。中世の古い石築りの塔が残るダブリン城公園の一角に18世紀の伝統的な建物を生かして建てられている。正面が入り口、向かって左側が美術館、右側が閲覧および事務室である。資料の閲覧はあらかじめ学芸員を通じて予約しなければならないが、美術館は常時開館しており、いつでも鑑賞できる。訪れた時ダブリンの町は真冬の海風が吹いていた。広い展示室は空調で寒暖を避け、彩色を保護するために照明は極力落としてあった。ほの暗い室内で東西の華麗な本が美を競っている。その片隅、400年前の京の都で生まれた可憐な絵本『伊勢物語』が輝いていた。遙かな西洋の国でわが国の美しい文化財は確かに愛され、大切に保存されていた。

(2004年2月9日訪問)

(古典籍課 問島由美子)

